



2014年私達は
80周年を迎えます



社会医療法人財団 董仙会
(けいじゅ ヘルスケア システム)

恵寿総合病院

恵 Keiju 寿

先端医療から福祉まで「生きる」を応援します

80th anniversary

BIG4 Discussion

恵寿総合病院80周年記念座談会

のと共栄信用金庫理事長

大林重治

恵寿総合病院 理事長

神野正博

七尾市長

不嶋豊和

加賀屋・代表取締役会長

小田禎彦

恵寿総合病院80周年記念座談会

ビッグ4が語る 「能登と七尾の再生」

恵寿総合病院が本拠を構える七尾市は、能登半島の中核都市。
2012年に「のとの里山里海」が世界農業遺産に登録以来、
国内外から大きな注目を集める一方、2015年春に北陸新幹線の開業を控え、
首都圏や県外からの観光誘客も見込まれている。
観光と医療・介護を含めた安全・安心な地域として可能性を広げる能登。
しかし今、能登全域で高齢化が進み、人口減少も待ったなし。
定住人口を増やすにはどうすればいいのか。
4人の有力者が、能登と七尾の再生について語り合った。



大林 重治
[のと共栄信用金庫理事長]

不嶋 豊和
[七尾市長]

神野 正博
[恵寿総合病院 理事長]

小田 禎彦
[加賀屋・代表取締役会長]



神野 正博

[恵寿総合病院 理事長]

かんの まさひろ ● 95年に特定医療法人財団董仙会(2008年より社会医療法人財団)理事長に就任。2011年には社会福祉法人徳充会理事長就任。
全日本病院協会副会長、七尾市医師会長、石川県病院協会理事 他。

日本有数の安全、 安心、おもてなしの心

神野 ● 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。去る9月8日、2020年に東京五輪が招致されることが正式に決まりました。私は、プレゼンテーションの素晴らしさもさることながら、五輪招致にあたって「おもてなし」に加えて、東京は「安全・安心」だというキーワードを世界にアピールできたことが良かったと感じています。東京五輪を機に今後、東京に来た人たちがいかにして私たちの能登半島に引っ張って来るか。これから真剣に考えなくてははいけませんし、なにより当地こそおもてなしの心、そして安全・安心な場所であることを世界の人にアピールしていく、いい機会になるのではないかと考えます。皆さんそれぞれ思うところをお聞かせください。

小田 ● 7年後とはいえ、東京五輪が開催されるの

は長い間、低迷してきた日本にとって久々に明るいニュースです。アベノミクスで、経済もなんとか上向きになるなかで、日本にもう一段、二段と明るい兆しが見えるきっかけになったことは間違いありません。決め手は、安全・安心、そして健康をしっかり支えていける地域がこれから大事になってきていること。そのなかで、おもてなしの心で海外からどれだけの人を日本にお迎えできるか。それが日本の命運を左右する一つの柱になっていくと思います。もう一つは、われわれ地方都市の有様です。北陸新幹線が1年4か月後に開業します。首都圏から約2時間30分、1年間におよそ1800万席の観光客を運ぶ。1日に換算すると約35000人席の、まさに民族大移動が北陸で始まります。これだけの潜在的な需要を目前にして、私たちが元気を出してやっていかなくてははいけません。私は、地域で安心して暮らしていけるのは、医療が充実していることだと思います。老後は海外でという人もおられますが、自分の健康状態を

恵寿総合病院80周年記念座談会

考えたとき、保険制度や医療の技術が整っているかどうかはきわめて重要です。コストが安い海外も魅力ですが、命あってのものダネです。七尾という立地は、医療の備えがしっかりできている。それが生活環境を考える上で大きな要素になっていくと思います。

不嶋●市で今、産業振興プランをつくりつつあります。これは金沢大学の先生方にもご協力いただき、七尾市の強みは何か、定住人口が減る中で生業を支えるものは何かなど、問題点を抽出して振興策を考えていくものです。そのなかで、生業を支えるものは何かというと医療と観光、そして農林水産業です。地元の農業、水産業でとれるものをしっかりブランド化し、医療と観光を含めた三者を融合させながら発信していくことの重要性を私自身、改めて認識しています。交流人口を拡大していくにあたって北陸新幹線の開業や、能越道

の開通も控えています。そのなかで医療、観光、農林水産業がそれぞれの分野をしっかりと深めながら融合し、発信できる体制にしておくことはますます大事になっていくでしょう。東京五輪の話が出ましたが、七尾市としては今後、単年度ではなく、3～4年継続していける予算措置を県などに提言したい。それと能登の玄関口・七尾の地理的な良さをアピールする意味で、新幹線であれ、能越道であれ、能登に入るときは必ず七尾・和倉経由で入る環境を、装備も含めてつくりあげることが大切だと考えています。そのなかで、能登の得意技でもある「おもてなし」と、医療や食を含めた安全・安心を、全国に向けて発信していくことが重要になると考えています。

大林●私もずいぶん環境が整ってきているように感じます。今回の東京五輪の招致決定や、北陸新幹線開通の効果などが、地元経済にどこま



小田 禎彦

[加賀屋・代表取締役会長]

おだ さだひこ●

平成 12 年 4 月 加賀屋代表取締役会長

平成 14 年 石川県観光連盟理事長

平成 14 年 能登半島広域観光協会理事長

平成 23 年 石川県七尾市文化産業賞 受賞

平成 25 年 七尾商工会議所特別顧問



で波及するかは未知数ですが、非常に大きな追い風になると期待しております。マスコミ報道などでは、東京五輪で3兆円の経済効果を見込んでいますが、私はお金に換算できない精神面でのプラス効果が非常に大きいと感じています。たとえば2020年に向けて何か設備投資をしよう、新しい事業に転換しようという企業にとっては、そのマインドが精神的なプラス効果をもたらす可能性があるのではないのでしょうか。七尾市を含めて能登地区は人口減少が進んでおりますし、定住人口の増加が大きな課題になっています。課題を解決していくためには、やはり住みやすいまちをつくる、ここに住んでよかった、そういう環境を隔々にまで行き渡らせることが重要ではないかと思います。市で進めておられますハッピーリタイアメント構想と相まって、たとえば働く場、雇用環境が良くなれば、もっと違ってくるのではないのでしょうか。医療関係ひとつとっても、雇用の場が増えれば、七尾に住みながら安全・安心な生活がしやすくなります。医療の受け皿でもいいですし、たとえ小規模でも雇用の場が広がれば、市外へ流出する人口はもっと少なくなると思います。

生きがいや教育の充実をめざす

神野●私は皆さんがおっしゃった安全・安心、そしておもてなしに関して七尾は全国でも有数の地域だと思っています。これに加えて今後、大切になっていくのは生きがいの創出です。定住人口を促進していくには、私たち一人ひとりが何をしなくてはいけないか。それは仕事かもしれないし、趣味かもしれない。あるいはコミュニティの充実、社会への参加意識をもつことなのかもしれません。生きがいというキーワードを何か一つ実現したいと思うのですが、皆さんはどうお考えでしょうか？

大林●私は、生きがいのなかには文化に触れることも入ると思います。七尾には、歴史や伝統、文化など心を豊かにしてくれる資源がたくさんあります。たとえば、お年寄りが寺院回りをすると



恵寿総合病院80周年記念座談会



か、地元の伝統産業に触れるとか、いままでは文化や文明に触れる機会が少なかったかもしれませんが、よくよく考えてみると都会にはない、良いものがたくさんあります。加えて、私は小中学校の子どもさんの教育も、生きがいづくりに欠かせない要素だと思っています。というのは、たとえば医療関係に従事される先生方は、地元で立派な進学校があるかどうか選択のポイントになるとお聞きしています。高校だけではなく、小中学校を含めて教育が充実していることになれば、学校で働きたい人も出てくるでしょうし、優秀な子どもを七尾から輩出できることになれば、企業進出にも好影響を及ぼします。そういったプラスのスパイラルで、七尾と言う地域がもっと違う展開になっていくことを期待しています。

小田●たしかに、お医者さんの奥さんやお子さんが喜んで行くということにならないと、お医

者さんにもなかなか来ていただけない面はあるでしょうね。

神野●ほんとうにそうで、苦勞してお医者さんを確保しても、奥さんと子どもさんの事情でお辞めになるケースは少なくありません。実際に当院に就職した医師のお子さんが、小学校でいじめにあったと聞いた時、これはまずい、どうしようと思いました。幸いうまく解決できましたが、いじめの問題は医師だけではなく、地域全体のイメージにも関係してきますので、教育環境は重要だとつくづく感じます。

大林●これからは、七尾の駅に降りたら「ここはちょっと違うぞ」と感じるようなイメージづくりが必要な気がします。たとえば道路にゴミが落ちていたら誰かが自然に拾う。雑草が生えていたら刈り取る。業者に頼むのではなく、市民自らが進んでそうするような風土がある。そうなればコストをかけずにきれいなまちができると思います。まち全体で、外から人を迎え入れる環境をつくっていく、あるいはつくる工夫が必要なのではないでしょうか。七尾に行くと空気感が違う。人あたりもいいし、まちもきれい。理想かもしれないですが、個人的にはそういうまちをめざしてほしいと願っています。

神野●大林理事長のところは、庫員さんが自ら進



80th anniversary

BIG4
Discussion



不嶋 豊和

[七尾市長]

ふしま とよかず●

昭和 48 年 石川県職員採用

平成 19 年 石川県教育委員会

事務局教育参事

平成 20 年 石川県企業局長

平成 21 年 七尾市副市長就任

平成 24 年 七尾市長就任

んでまちなかの草刈りをしておられますし、それから庫内にギャラリーを設けて、無名の作家さんに発表の場を提供して光をあてておられます。新人発掘につながりますし、市民にとっても大いに励みになる取り組みをたくさんされています。

学会やコンベンションを誘致

小田●週刊東洋経済が全国の「住みよい街ランキング」を発表しています。2012年の統計によると七尾市は全国で第4位。同時に、富山、福井、石川は持ち家率が高く、住宅が広いといった評価もあります。つまり、北陸や能登は豊かな生活を送っているエリアという印象を持たれている。北陸新幹線が開業すれば、そういう空気は一つのプロモーション材料になるのではないかと思います。世界に通用する日本語として「もったいない」「温泉」そして「おもてなし」がこれから流行るかもし

れない。そのときに、能登半島は「おもてなし半島」と印象づけて、表現に近い半島をいかにつくりあげていくか。世界農業遺産に象徴される農業がある。千枚田、揚げ浜塩田、発酵食などの食や日本古来の素晴らしいものが残されている。先ほどの文化的素養もそう。長谷川等伯が七尾から輩出されたこともその一つです。スポーツの世界では昔は横綱・輪島、今は遠藤という将来性豊かな力士が育ち、国民栄誉賞の松井秀喜さん、サッカーの本田圭佑選手、パティシエの辻口博啓さんなど世界で活躍する人材が石川から生まれています。そういうイメージをどうつなげていくかも、私はおもてなし半島を総称していく上で大事なことだと思います。

不嶋●人間力にはIQ（知能指数）、EQ（心の知能指数）などいろんな要素がありますが、能登に住む人はとりわけEQが大事ではないかと思えます。おもてなしは、観光に限らず、地域の人たち

恵寿総合病院80周年記念座談会

が外から来た人としっかりとコミュニケーションをとる手段になりうるものです。そのためにも、おもてなしの心を理解することが重要です。医療現場に行ったときも丁寧で、親切な気持ちで接することがおもてなしに通じます。もう一つは、食の安全・安心も能登をアピールする重要な要素です。能登と聞いた時に、安全な魚介類、農産物が産出されるイメージが湧くように、新鮮な食が豊富にあることを外に向かってアピールしていくことが大事だと思っています。

神野●医療の世界では毎年、学会が開かれます。金沢みたいに一度に3000人、4000人が集まるのは難しいですが、小規模なものや海外から人が集まるコンベンションなどは加賀屋さんでもちょくちょく行われています。観光だけではなく、学会やコンベンションを、能登や和倉温泉に誘致する機会がもっとあっていいように思います。実際に、

来たいという声も聞きますし、医療だけではなく学者や研究者が集まる学会や研究会もあります。そういう人びとをお迎えすることも、おもてなしに通ずるのではないかと思います。

不嶋●実際に世界農業遺産の国際会議が、今年、七尾・和倉温泉で開かれました。加賀屋グループあえの風さんに20か国、600人が集まり、成功を収めた。谷本正憲県知事からもお褒めの言葉をいただきました。われわれも学会、コンベンション、スポーツ合宿などの誘致を図ろうと動いてきたわけですが、今年は成功した年ではないかと思います。今後も名水サミット、寺町サミット、それから県主催の農業の担い手が集まるイベントなども開かれる予定です。しかし大事なものは、こうしたコンベンションや学会などが終わったあとの、アフターコンベンションです。奥能登も含めて、能登に来られた人たちに



大林 重治

[のと共栄信用金庫理事長]

おおばやし しげはる●

平成 15 年 のと共栄信用金庫
理事長 就任

平成 17 年 黄綬褒章受章

平成 21 年 石川県人事委員会委員

平成 25 年 等伯会会長

平成 25 年 七尾商工会議所会頭

地域を回って喜んでいただけるコースや商品をしっかり創成しておくことも大切です。和倉には宿泊のキャパもありますし、おもてなしで国際会議を滞りなく実施できる能力があることが立証されました。文化遺産、食の遺産を商品化し、ブランド化して、会議が終わったあともこんな楽しみ方があります、ということを医療も含めて印象づけることが重要です。七尾市のように6万人弱の地方都市で、心臓カテーテルの治療ができる急性期の総合病院が、恵寿総合病院さん含めて二か所もあるところは少ないと思います。それくらい医療環境や医療技術が整っていることも強みとしてアピールしていく必要があるかと思います。

医療やITの基盤整備が大きな強み

神野●空気がおいしくて、新鮮な魚介類が食べられて、温泉があって景色が良いところは日本中にたくさんあると思います。でも、いま言われたように急に心筋梗塞や脳出血になったときに手術できる医療が整っているところがどれだけあるかとなるとそうはありません。がんの治療は今すぐじゃなくてもいいですが、心筋梗塞や脳出血の場合は、何時間の勝負です。まさに生命にかかわる病気になっても治療できるだけの医療が整っていることは、いささか手前味噌ではありますが七尾の大きな強みではないかと思います。

不嶋●安全・安心のネットワークとしての医療の重要性は、これまであまりアピールしてこなかった部分かもしれません。しかし、市外や県外から移住する、定住を促進する、ハッピーライフアメントをアピールするときに医療のセーフティネットが充実していることは大きな強みで



す。それに加えて、同時に食も安全・安心で、近くに温泉や楽しむところもある。そういう恵まれた条件をセットにしてもっとアピールしてもいいように思います。

大林●先ほど学会誘致の話が出ましたが、私は学校の教育レベルを上げることと同時に、たとえば大学の研究所や企業の研究施設、開発拠点などを誘致してもいいのではないかと考えています。むしろ、官民挙げてそういう下準備をしておくこともまちづくりの重要な要素ではないかとも思います。研究所が誘致されれば、何十人もの研究員が能登に根づくことになります。今はネットが世界中とつながっているわけですから、研究拠点が能登にあっても全然おかしくないはずですよ。

神野●つくば学園都市は、研究者がたくさん引越して子どもの学力レベルがものすごく上がったそうです。今の時代は、電力や水が豊富にあるわけではないですし、工場誘致はなかなか難しい。仮に誘致しても、大きな経済変動があると工場全体が衰退し、まちも沈没しかねません。その点、子どもたちの親が研究者や学者というのは、まちの教育、文化水準を上げることにつ

80th anniversary

BIG4
Discussion

恵寿総合病院80周年記念座談会

ながりますし、イメージアップにもいい。もちろん、それには研究所に来る人たちが幸せを実感できる環境をつくっていくことが重要です。

小田●能登でコンベンションや世界会議が開かれた理由の一つは、基盤整備が進められたことも大きいと思います。世界農業遺産の国際会議や女性大臣のアジア環境サミットなどが開かれた際、LANやWi-Fiをつないで能登一円のネットワークがしっかり構築できました。電気自動車の充電所などもつくられた。とくにITの基盤整備は、不嶋市長がわざわざ総務省に出向いてテストされたり、予算交渉に動いて整備できたものです。表にはあまり出ませんが、私はこうした基盤整備も大変重要なことではないかと考えています。

能登の時代を、本物にするために

神野●ネット環境やITについては、医療分野でも地域医療連携で盛んに進めています。国から予算を出していただき、能登北部の医療圏や薬局とつなげるなど、今年も実証実験を行っています。国は東京のど真ん中ではなく、七尾のような地方都市で新しいことに取り組む環境づくりに目を向けてきています。たとえば東北の震災復興についても、東北でいきなり実施するより、同じような地域で実証実験を行ってから持っていくというように、インフラの整備がよりしやすくなります。今後の能登や七尾に対するいろんなご提案やアイデアがたくさん出ました。具体的にどうするかを含めて、最後に一言ずつお願いします。

小田●私は東京都の猪瀬知事に一度、お会いしたいと思っています。猪瀬さんが、まだ評論家だったころに観光を題材に講演をお願いしたこ

とがあります。そのときに、猪瀬さんが私に「観光とは時間を消費する物語を販売することだ」とおっしゃった。まさか都知事になるとは思いもしていませんでしたが、その言葉をしっかり守っていることを知事就任の際、祝電にしたためました。猪瀬都知事は、ハローワークで職を求めている人を地方へ分散するプロジェクトを考えたいとおっしゃっています。そのプロジェクトにぜひ能登が名乗りを上げるべきだと思っています。能登は交通アクセスはもとより、住まいについても七尾市には合併以降、約4000軒の空き家があるそうです。朽ち果てている家の中にはあるでしょうが、水回りを整備し、リフォームして入居できるようにする。そして働く場所を確保し、分散している商業施設や、街中に特徴のある店を集中させて、都会から人が来ても生活できる環境づくりに官民一体となって取り組む。そういう仕組みづくりに、微力ながら力を尽くしていきたいと思っています。

不嶋●まちなかの活性化で言えば今、シャッターオープン事業をやっています。人の集客を増やす工夫と相まって、店が再び営業できるように支援していくものです。七尾にはしょうゆや和ろうそく、昆布など地域ならではの特色ある店があります。商工会議所とも協力して、そうした地域独特のお店を増やして、活気を呼び戻したいと考えています。お店に少しずつ活気が出てくれば人は必ず戻ってきます。太平洋側では、南海トラフとか大きな地震を想定している中で、北陸は、冬の雪を除けば比較的、災害は少ない地域です。北陸新幹線の開業も控え、これから価値観が大きく変わる可能性を秘めています。10月からホームページを立ち上げて、先ほどの空き家情報はじめ病院、学校、買いもの情報なども含めて七尾は住みやすいことをトータルで

80th anniversary

BIG4 Discussion

アピールしています。これから私たちの地域、七尾や北陸の時代が来る。そういうことを意識しながら、基盤づくりにしっかり取り組んでいきたいと思っています。

大林●能登は空港がありますから、首都圏から1時間圏内です。先ほどお話ししたような研究所や学校ができて1時間圏内で行けますし、新幹線が開業すれば3時間、4時間で首都圏から能登に来れる時代になります。私は「おもてなし」という言葉は、能登の風土から生まれたと言っても過言ではないほど地域に根づいていると思っています。そういう意味では、どこよりも先に七尾がアピールしていくべきです。皆さんがおっしゃった安全・安心で、住んでよかったと思えるまちにしていくためにこれからも、いろんな角度から支援や応援をしていきたいと思っています。

神野●やりたいこと、やらねばならないことはたくさんあります。しかし大切なのは、小田会長がおっしゃるように、私たちが都会の人たちにいかにして「伝えていくか」です。東京五輪のプレゼンのようにはいかないまでも、たとえば東京駐在七尾大使とか、七尾観光推進委員とか、あるいは公の場で「七尾はこう変わります」みたいなことを講演や挨拶などで語っていただくというように、各自が伝える努力をしていけたらいいと思います。本日は、大変貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。

